

2020

JAN. 1 vol.47

# 東京成徳広報



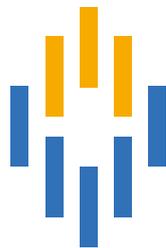
建替えにより 2021 年度中の竣工を計画する、幼稚園の新園舎完成イメージ図



学校法人 東京成徳学園

C O N T E N T S

P 3	<b>巻頭言「学園の更なる充実を願って」</b> 東京成徳学園 学園長 木内 秀俊
P 4	<b>特集「リクルート進学総研 大学・短大トップインタビュー」</b> 東京成徳学園 理事長 木内 秀樹
P 6	<b>特集「大学入試改革」</b> <b>「ALL 東京成徳バスケットボールフェスティバル」</b>
P 7	<b>特集「広がるクリエイティブな学び」</b> <b>学園人事 表彰 採用 退職</b>
P 8	<b>ひと『活躍する卒業生』</b> お笑いコンビ マシンガンズ 滝沢 秀一さん
P 9	<b>TOPICS</b> 大学院 国際学部
P 10	人文学部（日本伝統文化学科 国際言語文化学科）
P 11	応用心理学部（臨床心理学科 福祉心理学科）
P 12	応用心理学部（健康・スポーツ心理学科） 子ども学部
P 13	経営学部 短期大学
P 14	短期大学 中高一貫部
P 15	高等部 深谷高等学校
P 16	深谷中学高校一貫コース 幼稚園
P 17	<b>秋を彩る各校のイベント</b>
P 19	<b>手作り絵本コンクール</b> <b>クラブ活動</b>
P 20	<b>入試予定・お問い合わせ先</b>



TOKYO SEITOKU

学園シンボルマーク  
イエローは「活力」と「勇気」を表し、  
三本の柱は学生・生徒・園児、教職員、  
同窓生を象徴しています。  
ブルーは「理想」と「若さ」を表し、五  
本の柱は五つの教育目標を象徴していま  
す。  
そして、八本の柱が一体となり、東京成  
徳学園とその学園に集う人々のヒューマ  
ニティを作り上げる姿を表現しています。

**表紙 2021年度竣工計画の幼稚園新園舎**

現幼稚園舎は、当初の建物が1958年に完成し、その後、増築・改修・耐震補強などの工事を経て現在に至っている。このたび、保育の一層の充実に資するとともに、園児の快適性・機能性・安心安全に配慮した建物に建替える。新園舎は、敷地東側に集約し、2021年度中に竣工の計画。なお、建築中も敷地西側の既存園舎にて保育は継続して実施する。



## 「学園の更なる充実を願って」

東京成徳学園 学園長 木内 秀俊

### 令和時代の始まり

令和の時代が始まった。現代の日本人は時代のあり様を元号で区切って表現することが多いように思う。例えば昭和の生活とか明治の風景などという言い方をしたりする。この令和時代の始まりにあたり100周年を数年後に迎える学園の足跡を昭和前半、昭和後半、平成で辿り、令和時代の課題を考えてみたい。

### 昭和前半（昭和30年頃まで）

大正に入つて西欧的な近代化が進む中で教育制度の改革がなされて中等教育以上の教育機関の充実が図られ、女子の中等教育機関である高等女子校の拡充が求められた。学園創立者菅澤重雄先生は、この教育ニーズに於て大正15年（1926年）高等女子学校を設立した。菅澤重雄先生と後に第二代理事長となる菅澤重義先生は、相携えて学園の経営・教育面での初期の様々な困難を乗り越え、建学の精神「成徳」のもと着実に学園の基礎を築いていった。そして戦争という大

きな試練に遭遇しつつも着実に教育を継続した。

さらに戦後の新憲法下の教育制度の改革によつて、高等女子校は高等学校と中学校に分離されるという大きな変化に直面する。中学校は義務教育として公立学校の整備・拡充が進んだ。そして本学園の中学校部門は次第に縮小を余儀なくされ、高等学校を中心に教育を展開することになった。この高等女子校設立から戦後の教育制度への対応までの時期は本学園の創業の時期にあたる。

### 昭和後半

戦後菅澤重雄先生の要請を受けて学園の教育・経営に加わつた木内四郎兵衛先生（後に第三代理事長）は、建学の精神である『成徳』を創立者の生き方も含めて5つの教育目標に展開し内容の具体化を行った。また積極的

設置した。

また教育面ではティーチングマシンの開発など現在の教育機器利用の先駆けともいえる教育手法の実験も行われていた。さらに第次ベビーブームによる進学需要の高まりのニーズに於て大規模化するとともに教育の高度化を目指し短期大学の設置を行った。この時期は学園の拡大・発展の時期にあたる。

### 平成時代

ベビーブーム終了後は工場等制限法により人口集中の著しい東京等における大学の設置が認められない時期が続いた。しかし、社会の教育高度化と男女均等意識からの要請に沿つて、学園は平成5年男女共学の四年制大学を千葉県八千代市に設置し、順次学園内各校の共学化が進められた。

また現在大学機能は十条台キャンパスに集中しつつある。このキャンパスの中心校地の取得に多大な尽力をなされた鎌田正先生（当時短期大学副学長）を始め、学園のこれまでの発展は学園に所属した多くの教職員および関係者の学園に対する愛情と献身的な努力の積み重ねである。深く先人の努力に心するとともに感謝の念が湧くのを禁じ得ない。平成の時期は大学設置による高等教育の充実や全学園での共学化が行われて総合学園の姿を整えた

時期である。

### 令和時代を迎えて

現在、「少子化」「グローバル化」を背景として、様々な教育改革が進められている大変革期である。本学園は100周年を見据えて『成徳』の精神を持つグローバル人材の育成を掲げて諸活動を展開している。現在の社会のニーズはグローバル化する世界で共生・活躍できる日本人の育成である。ここではグローバルな視野の獲得と共に、米中対立に見られるように自己の拠り所とする信念・価値観が問われる状況になっていると思う。明治の西欧化では「和魂洋才」の標語のもとに西欧化が進められたが、現在は和魂の元をなした江戸時代の文化的・精神的な蓄積に対応するよ

うな基盤が有るかについてはいささかの疑問もある。建学の精神がそこに一つの役割を果たしてほしいと思う。

学園が令和の時代の社会のニーズに対応するためにはこれまでの蓄積の上に、①教育する力 ②学園内外に亘るの協働する力 ③スピード感のある実践する力 ④社会への発信する力を、一段と充実・強化し高める必要があると考える。令和時代に学園が目標に向かつて教職員体となり教育・研究・社会貢献の更なる充実を図って行くことを心より願って止まない。

この度、リクルート進学総研が運営するWebサイト『キャリアアガダンス』に、本学園木内秀樹理事長の大学・短大トップインタビュー記事が掲載されましたので、転載します。  
本学園の建学の精神や学園創立90周年の節目に策定した『東京成徳ビジョン100』、大学の将来構想などについて、分かりやすく語っていただきますので、ご覧ください。

リクルート進学総研『キャリアアガダンス』令和元年11月25日掲載  
大学・短大トップインタビュー

学校法人東京成徳学園 理事長 木内 秀樹氏

2026年に学園創立100周年  
東京成徳大学は21世紀型スキルを備えた、  
成徳の精神をもった人材育成に注力

### 「成徳」の精神をもつ グローバル人材の育成を目指して

学校法人東京成徳学園は、1926年（大正15年）に、現在の東京都北区に王子高等女学校を設置したことにより始まりました。開学以来、社会に求められる教育を展開し、

現在では、大学院、大学、短期大学、高等学校、中学校、幼稚園からなる総合学園に発展しています。

2026年には学園創立100周年を迎えます。記念すべき90周年の節目に『東京成徳ビジョン100』を策定しました。建学の精神である「成徳」、つまり「徳を成す」ことのできる人材の育成を、大学から幼稚園まで一貫し

どのように目指すか、重点目標や戦略などを改めて検討しました。

この『東京成徳ビジョン100』で特に重要なのは、将来像に『成徳』の精神を持つグローバル人材の育成を掲げていることです。それぞれの学校が重点目標達成に向けて対策を講じていきますが、最終的にはこの将来像の実現を目指すことが重要だと考えています。

### 「徳」は、自己研鑽の積み重ねの賜物

創立者の菅澤重雄は、「徳」の意味に共感し、強い思い入れをもって、学園名に冠し本学園を建学しました。

「徳」は中国の思想からきている言葉ですが、東洋思想だけでなく、西洋思想の哲学や宗教においても、同様の考え方が見受けられます。江戸時代の陽明学の祖といわれる儒学者、中

江藤樹の言葉に、「大善は名声をもたらずが、小善は徳をもたらず」という一節があります。小さな良い行いを積み重ねることによって徳がもたらされる。日頃から自己研鑽に励むことが大切で、それによって品格が備わるということなのです。

良識と品格をもって行動できる人材が『成徳』の精神をもつ人材であり、この建学の精神に21世紀型スキルに着目し、「グローバル社会で活躍できる」を加えたものが、『東京成徳ビジョン100』の若者の将来像なのです。

### 日本から世界とつながる。 それぞれの場所で一端を担う

日本はグローバル化に後れをとっており、もともと世界に目を向け、グローバル化を図ることが必要だといわれています。そのような一面もあると思います。日本には日本独自の世界に誇れる文化や習慣もあるのではないのでしょうか。

例えば、サッカーの国際試合終了後、観客席を掃除する日本人サポーターが世界中から賞賛されました。こうした行動は、まさに「徳」の精神であり、この行動は他国のサポーターへと広がりましたが、これは「徳」の感化する力といえます。

グローバル社会の中で、「徳」は決し

て異質のものではありません。むしろ、「徳」を備えている人材はグローバル社会において、今後もっと評価されることになるのではないかと思います。ITの進化により、社会のデジタル化が二層進むからこそ、人間として精神的なコアが大切になるのではないのでしょうか。「徳」の精神をもち、それぞれの場所で、各自の役割を自覚して、他者と連携して活躍できる人材が、真のグローバル人材といえるのではないのでしょうか。

### 生涯にわたって学び続ける姿勢を育む

現在、東京成徳大学は、国際学部 国際学科、応用心理学部臨床心理学科、健康・スポーツ心理学科、子ども学部子ども学科、経営学部経営学科の4学部5学科で学生募集をしています。大学の学びでは、専門教育の学びを通じ、課題を発見し、問題解決能力を身につけることに重点を置いています。そのプロセスや、仲間と協力して学んだ経験は、社会に出て、どのような業種や環境に身を置いても生きるのではないかと思います。

技術革新が日進月歩で進む時代だからこそ、私たちは常に学び続ける必要があります。このような意味では、東京成徳大学は建学の精神に根ざし、学生が主体的に学ぶ姿勢を大切にしてい

います。また、グローバル社会を生き抜くために求められる能力は、「21世紀型スキル」といわれています。不易である「徳」と、流行である「21世紀型スキル」を兼ね備えた若者を育てるために、東京成徳大学では学びの環境を整えていきます。

### 学生全員が1年間の海外留学を経験する「国際学部」が誕生

2019年4月、東京成徳大学に国際学部を創設しました。国際学部では、学生全員が二年次後期から一年間の海外留学を経験します。留学先はアメリカ、または韓国です。そして帰国後も、語学力のさらなる向上に特化したカリキュラムが組まれているのが大きな特色です。

国際学部が誕生したことによって、既存の経営学部、応用心理学部、子ども学部との「学びのつながり」が期待できると考えています。例えば、海外留学のノウハウを他学部にも応用できるなど、個々に独立していた学部が、相互に密接に連携し、学際的教育ができるようになったといえます。

語学力はグローバル社会に必要不可欠なスキルです。現在は英語・韓国語の2コースですが、将来的には中国語など多言語へのさらなる展開も視野に入れています。

### 全学部が東京キャンパスに集結。各学部の学びが広がる

また、2020年から応用心理学部健康スポーツ心理学科が、千葉キャンパス（八千代）から東京キャンパス（十条）に移転します。これまではスポーツと心理学の2つの視点からの学びでしたが、移転を機に、都市型の健康・スポーツが学べるものとして、カリキュラムの変更を進めています。キーワードは、「ウエルネス」です。健康より大きな概念である「ウエルネス」を軸に据え



ると、応用心理学部臨床心理学科や子ども学部とのさまざまな連携が期待できます。幼児教育においては、子どもの教育に加え、子育てに悩む親の相談に乗ることも大事なことです。心理学や「ウエルネス」という観点に基づくアプローチで解決方法を導き出す場合もあるでしょう。

応用心理学部健康・スポーツ心理学科の移転に伴い、2020年に全学部が東京キャンパスに集結します。国際学部の創設と相まって、全学部が横断的につながり、学びの可能性がさらに広がります。規模的には小さいですが、内容的には優れた教育があり、日本一の大学と評価されるよう努力します。

### One for All, All for 東京成徳ユニオン100

今後、創立100周年を迎えるにあたり、全教職員が『東京成徳ビジョン100』の目標達成に向けて考え、行動することが大切です。まずは、各学部で専門的な学びを充実させるとともに、学生に「成徳＝徳を成す」を意識してもらえ、土壌をさらに醸成していきたいと考えています。そのため、「学び」の中でも、対話や議論が必要とされるように、学生生活の中で活発なサークル活動などを通じて、多様

性と連帯、そして課題解決能力を身に付けることは、とても意義あることだと考えます。こうした活動が活発になるよう、支援していくつもりです。

「One for All, All for One」という有名な言葉があります。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という意味で知られていますが、本来は「人はみんなのために、みんなが一人のために」と解釈すべきといわれています。この言葉を活用すると、「One for All, All for 東京成徳ユニオン100」となります。『オール成徳』という意識の下、二つのビジョンをみんなと共有し、実現に向かってみんなで努力をしていく。特に東京成徳大学では、多様性を尊重しながら、教職員が一体となり、学生と共に学園創立100周年に向けた大学づくりに取り組んでいきます。

リクルート進学総研 Web サイト『キャリアガイダンス』とは、高校生の主体的な進路選択を応援する進路担当教員・校長・教頭・副校長、クラス担任、保護者に向け、進路指導・キャリア教育に役立つ情報を発信するメディアです。

[http://souken.shingakunet.com/career\\_g/](http://souken.shingakunet.com/career_g/)

## 大学入試改革について

高等部進路指導部長 佐藤 則之  
グローバル化の進展、技術革新、社会構造の変化などにより、新たな価値を創造していく力を育てることが一層重要になっています。

そこで、従来の学習方法であった「知識、技能」を詰め込む形態から、「思考力、判断力、表現力」が問われる形態へと変わりつつあります。グローバル化の進展の中では、英語をツールとして扱うには、4技能（読む、書く、聞く、話す）をバランスよく身に付けなければなりません。外国人など多様な人々と協働して、主体的に考え、物事を成し遂げていく能力も不可欠になっていきます。このような社会の変化に対応するために、高校教育もこの流れを避けることはできないのですが、大学入試が現状のままでは、従来の座学中心、知識・技能の習得中心の学習から脱却できません。このような背景もあって、高大接続（大学入試）改革が行われることになりました。

2021年度入試から行われる大学入学共通テスト（以下、「共通テスト」という。）は、センター試験の延長線上にあります。出題範囲は現行のセンター試験と同じです。過去問題を  
を利用した対策などには変化はありません。解答形式が少し変わるだけと思えばいいのです。生徒諸君は、本校の授業を中心に学習し、そこから実力テスト、講習会等に取り組みなければ十分に共通テストに対応できるはずで  
す。確かに、各大学の共通テスト利用方式が現時点で様々なので、希望する大学ごとに対策を考えなければなりません。学習を進める上では支障  
になるものは何もありません。一番大事なのは、情報に惑わされて、焦った  
り、安易な方向に志望校をランクダウンさせたりしないことです。大学入試  
に対応する力をつけるためにはテクニクだけではなく、基礎を大事にして学  
問の本質を理解することです。まずは、しっかりと足が地に着いた学習を  
継続することが大事だと肝に銘じて欲しいと思います。

ただ、英語民間試験活用及び国語  
数学の記述式問題導入が、一転して見  
送りとなりました。今後、各大学は  
慎重に対応を検討することになるとみ  
られます。現2年生は、今後、文部  
科学省や各大学等が発表する  
2021年度入試の情報を随時確  
認することが大切です。

## ALL東京成徳バスケットボールフェスティバル

高等学校男子バスケットボール部  
監督 小林 康裕

去る11月26日の学園創立記念日に、東京成徳大学（1年生）・東京成徳大学深谷高等学校・東京成徳大学中学校・東京成徳大学高等学校の各男子バスケットボール部（総勢約60名）が、東京成徳大学高等学校高等部第一体育館にてバスケットボールを通じた交流会を実施いたしました。



全カテゴリー  
の学校が一堂に会  
するのは初  
の試みで、  
先般、関東  
大学バス  
ケットボ  
ルリーグ戦  
2部に昇格  
した大学生  
に胸を借り  
る形で有意  
義な一日を  
過ごすこと  
ができました。

午前中は東京成徳大学 川北準人  
教授によるクリニック（合同練習）  
を実施していただき、大学生から中  
学生までが同じコートの中で練習  
に取り組みました。午後からは各  
チーム総当たりでゲーム形式の練  
習を行い、切磋琢磨しました。

学園内でそれぞれのカテゴリー  
が刺激しあえる機会はとても貴重  
でした。バスケットボールに関わら  
ず、今後多くの分野でALL東京  
成徳の繋がりが増えることを切に  
願います。



## 広がるクリエイティブな学び

一貫部 ICT 活用推進部長 和田 一将  
**Apple Distinction Award 認定**

7月上旬に開催された「ADE Institute 2019 Australia」を経て、正式に3名の教諭（福島、廣重、降矢）が Apple Distinction Award Educator（以下「ADE」という。）に認定されました。本校にはこれで合計4名のADEが在籍することになります。

ADEとは、AppleがiPadなどのテクノロジーを活用して教育現場の革新に努める初等、中等、高等教育分野の素晴らしい先生たちを公式に認定するプログラムのことです。世界では約2500名、そのうちアジアでは約700名の先生方がADEに認定されています。

ADEは自分の学校のみならず地域や世界の教育界を変革するための方法を模索しています。世界中で意欲的に活躍している先生方と多くつながることができるのもこのプログラムの魅力のひとつです。先日行われた Instituteでも世界中の多くの先生方の教育実践に触れ、各国の教育事情についてなど深く情報交換ができました。ADEの主な役割は4つです。

### 1 信頼できるアドバイザー

学習環境とテクノロジーの統合を実現するエキスパートであり、教育界の革新を推進するため、Appleと密接に協力し合っています。

### 2 真の執筆者

授業の実践やアイデア、授業のコース、電子出版などを公開することで、iPadなどのテクノロジーをどう授業に活かしていくかベストプラクティスを提供し、様々な教育現場でリーダーシップを発揮しています。

### 3 グローバルな大使

世界中のADEと互いに協力しながら、指導と学習を世界規模で向上するようパワフルなアイデアを生み出し、よりよい教育を生徒達に提供できるように努めています。

### 4 熱心な提唱者

生徒・学生たちが新しい方法で学習に取り組めるよう、世界中のほかの先生方と一緒にiPadなどのテクノロジーを活用して支援するエキスパートです。

### オープンデイの実施

11月22日（金）1時から5時までオープンデイを実施し、多数のご参加をいただきました。本校の目指す、「生徒たちの自立を促す探究する学び」

「教職員がチームとして工夫をしながら学校のビジョンを具体化」「テクノロジーの学校生活への自然な浸透」の実践状況について、見学及びディスカッションを行いました。お陰様でオープンデイ全体の満足度アンケートで5点満点の47の評価をいただきました。私たちは本校の教育をより良いものにしていくのと同時に、日本全体の教育についてもより良いものにしていく使命があります。これからも積極的に発信していきながら学園全体がより活気付くよう精進していきたいと思えます。

## 学園人事

中高貫部副校長が東京都功労者表彰

中村雅一 中高貫部副校長は、令和

元年10月1日、教育功労により東京都功労者として表彰されました。

（令和元年7月～12月）



退職		採用	
職員	教員	職員	教員
深谷高等学校	短期大学	深谷高等学校	短期大学
三井	木下大祐	高橋功	群司敦
井力	LANGSTON ELLIOT	三島順子	STEEL JUSTIN THOMAS
	RICKEYS DEIDRA LEA	三島直一	MOSER TALESSA THOMAS
	小畑弓子	青木雄太	
	堀左馬之介	手塚智恵子	
	村信子	三島順子	
	寮	寮	
	事務長	事務長	
	配属・役職		配属・役職
	幼児教育科准教授		幼児教育科准教授
	専任講師		専任講師
	専任講師		専任講師
	教諭		専任講師
	キャリア支援課		キャリア支援課

# ひと

## 『活躍する卒業生』

人文学部英語・英米文化学科  
(現国際言語文化学科)

(1999年3月卒業)

お笑いコンビマシンガンズ 滝沢秀一さん

### 在学時代の思い出

私は、高校時代から教員志望で、英語を勉強したいと思って本学に入りました。とにかく減茶苦茶に勉強して3年次終了迄に卒業に必要な124単位を取得していました。できるだけ多くのことを学ばなければ損だと思い(笑)、卒業時には180単位以上、それに他学科で興味のある日本文学の講座なども先生に許可をいただき聴講しました。

2年生の時にエドガー・アラン・ポーを英文で読んで、これはなかなか面白い、自分でも小説が書けるのではないかと思います。かと思えば遊びみたいな感じで二寸短編



を書いたりしてみました。エドガー・アラン・ポーを卒業論文にしたのですが、物事を論理的に考えるという論文の書き方を鍛えられました。

部活動は軽音楽部に入りましたが、部としてはから形をつくるといった感じでした。部長をした時は部員が少なく、同好会に降格しては大変と人集めに苦労しました。私はポーカルとギターを担当し、翠樟祭のステージでの演奏で皆に喜んでもらい、打ち上げ花火の綺麗さは、今でも印象に残っています。最初は東京の自宅から通学していましたが、2年の時から勝田台に一人で下宿をしました。軽音のメンバー、後輩や他学科の友人も増え、料理に挑戦したり、様々なことが新鮮で楽しい充実した日々でした。この時の友人数人と今でもライングループで繋がっています。アルバイトもスーパーなど多くの職種をやりました。世間のことを学ぶ今考えると貴重な体験でした。

### お笑いコンビマシンガンズの結成

4年生の時にいよいよ教員になろうと思ひ教育実習も自分の出身高校にお願いして決めたのですが、お笑い芸人になろうと進路を変えたので学校には大変迷惑をかけました。お笑いを学ぶためにお笑い雑誌を調べて「受講料が安かった」という理由で都内のカルチャー

センターに2ヶ月通ったのですが、そこはプロの芸人を育てる所ではありませんでした。私と同じように間違っただけで、今の相棒の西堀亮君でした。

'98年、お笑いコンビ「マシンガンズ」を結成し、「エンタの神様」「爆笑レッドカーペット」などの人気番組にも出演しました。お笑いの世界は凄い競争でライバルは多く、売れないと二寸ずつ仕事がなくならない感じがします。新作も最低月に1本は考えねばなりません。

### お笑い芸人とゴミ清掃・作家へ

'08年に結婚。'12年私が36歳の時妻が妊娠して40万円かかると聞き、これは定収入が必要だと思ひ、職を探したのですが、殆どが35歳までの年齢制限があり、制限のないゴミ清掃の民間会社に就職しました。朝は6時30分出社、8時から収集を始め2時から4時に終わるのが大半ですが、遅い時は7時過ぎという時もありました。明日ゴミの仕事という時は前夜から禁酒！

お客様と接するから酒臭くてはダメという理由でした。台風の影響で床上浸水されたお宅も多かったようですが、皆さん水に濡れた畳の重さはどれ位か想像してみてください。3年目迄はめっちゃ大変でした。しかし、ごみ集めを真剣にやってみると、とても奥深いものでした。

私は'06年頃から小説を書いて文学誌に投稿していましたが小説家としてデビューしたのは'14年の小説「かごめかごめ」です。そこで、これまでごみ清掃の中で体験したことや気付いたことをまとめ、「このゴミは収集できません」(白夜書房)、「ゴミ清掃員の日常」(講談社)、「ゴミ育」(太田出版)の3冊を上梓することができました。事務所の先輩有吉弘行さんがSNSで発信してくださり、伊集院光さんが新作の帯を書いていただいたお陰です。また、家内が伝言のメモに可愛い猫のイラストを書いてくれたのを見て、「書いてみないか」「やってみます」ということで、家内が1年間勉強して48歳で私の本を漫画にしてくれました。

### 後輩へのひと言

①ごみを減らしましょう！

今1年間で64万トンを超す食べられるのに捨てられる「食品ロス」が発生しています。世界には飢餓に苦しむ人がいる中で、食品ロス削減が課題です。飽食の時代、見直して欲しいと思います。東京のごみの最終処分場はあと50年で満杯です。

②大学生活を大いに楽しんでください。ただ、36歳以上はバイトの口もありませんから、35歳迄には方向を決めた方がよいですよ。

大学院

公認心理師を目指す大学院生の実習についてのご紹介

心理・教育相談センター長 田村 節子  
 大学院では、「臨床心理士」養成に加えて、今年度から「公認心理師」養成を開始いたしました。公認心理師とは公認心理師法に基づく心理職の国家資格です。

公認心理師法附則第2条により公認心理師になるための必要な科目が明確に決められています。その中に「心理実践実習」という授業が位置づけられており、450時間以上の実習（うち担当ケースに関する実習時間が270時間以上）が求められています。この授業は知識及び技能の基本的な水準の修得を目的としており、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働等の分野の施設を対象としています。

具体的には、心理に関する支援を要する人との(1)コミュニケーション(2)心理検査(3)心理面接(4)地域支援等を学びます。さらに、心理支援を要する方々の理解とニーズの把握及び支援計画の作成やチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解などを実践的

に学びます。

本大学院では、医療分野では薬物依存等の治療で有名なアパリクリニックや昭和大学横浜北部病院など12施設、教育分野では北区適応指導教室、東京シユール葛飾中学校など5施設、福祉分野では社会福祉法人むつみ会など2施設、司法分野では埼玉保護観察所などの施設が実習先となり指導資格のある医師やカウンセラー等に指導していただいています。

さらに、大学院生は本学心理・教育相談センターにて学内実習としてケース担当を行っております。本大学院では教授、准教授、助教、特任教授、特任准教授、特任助教等が巡回指導や学内でのスーパービジョンなどを担当し、優秀な高度職業人を輩出すべく日々努力をしております。



心理・教育相談センターのプレイルーム

国際学部

留学中の経験と成長に期待

学部長 芳賀 克彦

国際学科の第1期生である1年生が、昨年の8月下旬から9月下旬にアメリカ、韓国の留学先に出発して以来、早や4カ月余りが経過しようとしています。現地での最初の1カ月は生活と学習の環境が大きく変わったため、多くの学生が戸惑いと不安を感じたようですが、その後は持ち前の若さと柔軟性により、新たな環境に十分適応し始めています。

く新鮮な発見になったようです。また、学生たちはこのような環境で他の留学生と共に約1年間頑張れば、自分もきつと成長できると確信したようです。週末は友人たちと連れ立って近隣の観光地を訪問したり、交流行事に参加したり、外食を楽しんだりしています。アメリカ留学の学生たちの中には、10月末のハロウィーンパーティに仮装をして参加した学生もいたようです。

アメリカでも韓国でも最低85パーセントの授業への出席率が求められています。みんなしっかりと授業に出席し、学業に励んでいます。授業では最初は他の国々の留学生がよく質問することに圧倒されていたようですが、簡単なことでもよく先生に質問しているということが分かると、自分から積極的に先生に質問し、できるだけ話すように心掛けていくようです。また、最高でも15人の小規模のクラスにおいて、授業中は先生とのやり取りや学生同士のロールプレイにずっと学生の参加が求められますので、おしゃべりをしたり、居眠りする学生が一人もいないということがすぐ

アメリカ留学の学生たちは現地のご家庭にホームステイさせて頂き、韓国留学の学生たちは大学付属の学生寮で生活しています。いずれの生活環境においても大切なことは、日常生活の自己管理と何でも自分でやるという姿勢です。ホームステイでは朝夕の食事は提供されませんが、洗濯は自分で行います。各家庭の決まりに従い、掃除当番や食事の手伝いをすることもあります。韓国の寮生活の場合には自炊が出来ますが、食材の買い物、調理から後片づけまですべて自分で行います。二人一部屋の生活なので、快適な生活を行うためにはお互いの協力と寛容の精神も大切です。

留学中の様々な経験を通じ、学生たちが大きく成長して帰ってくることを期待しています。

人文学部

【日本伝統文化学科】

学外研修

学部長・学科長 青柳隆志  
日本伝統文化学科は現在、2年生が東京キャンパス（十条）で、3年生と4年生が千葉キャンパス（八千代）で学んでいます。

学科では、11月9日、2年生の学外研修が行われました。行き先は、佐倉にある国立歴史民俗博物館です。一般展示のリニューアルオープン後、初の見学になります。

博物館で新しくなったのは「先史・古代」をテーマにしたエリアです。学芸員実習希望学生がとてども



元気な日本伝統文化学科2年生（国立歴史民俗博物館にて）

い学年ですので、非常によい勉強になったようです。東京キャンパスの学生にとつては、千葉県内の施設での見学は千葉キャンパスとの交流の一環であり、なかなか普段交流の機会を持ってない両キャンパスの意識を高めるよい機会になりました。

大変な被害を受けた佐倉市内でしたが、その復旧もきちんとすんでいました。今年は3年生の学外研修（佐原）が台風で中止になったり、いろいろと大変でございました。佐倉市内の散策も大変楽しく、今後もこのような機会が多くあるとよいと思います。

東京キャンパスの学園祭「桐友祭」には2年生有志が展示・ステージ参加し、千葉キャンパスの「翠樟祭」がなくなってしまう空白を埋めてくれました。こうしたアクティビティーへの参加も、学科の存在感を示すものとして重要であると考えます。



レトロな復元展示にとけこむ 伝統文化大好き学生

【国際言語文化学科】

令和元年度後期取り組みのご報告

学科長 周建中

中間発表会

11月16日（土）、東京キャンパス（十条）6号館大教室にて、グローバルラウンジでの昼食交流会を挟み、2～4年生計94名の在学生、4名の交換留学生と教員10名が参加し、中間発表会を行いました。

3年生必修のゼミ「言語文化演習」の授業内容を2年生に紹介するとともに、3年生のゼミ論文と4年生の「卒業研究」の中間発表を行いました。また、2年生及び留学したため来年度履修する3年生に来年度のゼミの希望調査と、3年生に4年次必修科目である「卒業研究」の説明を行いました。また、今回は2～4年生の交流をさらに深めるために、千葉キャンパスの3～4年生はチャーターバスで東京キャンパスへ移動して参加し、初めての規模の発表会になりました。明るい、広々とした大教室で3～4年生の幅広い研究分野の面白い内容の発表があり、各ゼミ論と卒研指導担当の先生や、特に2年生からの積極的な質問で発表会が大いに盛り上がりました。

一方、お昼の間に各学年の学生代表5名と教員5名による学生の意見を聴取して授業改善に繋げるためのFDが行われ、学生たちのしっかりとした観察と考えに感心しました。

各種検定の合格状況

TOPIK（韓国政府教育省認定実施の韓国語能力試験、6級が最高級）は、2級5名、1級3名、4級と5級の各1名、ハングル検定（1級が最高級）は、準2級1名と4級3名でした。TOEICは、770点、725点、670点と625点の各1名、英検準2級は、2名の合格でした。HSK（中国政府教育省認定実施の中国語能力試験、6級が最高級）は、4級と5級各1名の合格でした。秘書技能検定は、2級が1名でした。

留学

現在留学中の2年生は、韓国が、ガチョン大学交換留学3名、ベクソク大学1名、ヨンセ大学半期留学3名です。また、交換留学生として韓国から4名が本学に在学中です。来年度の留学予定は、韓国が、半期留学ヨンセ大学1名、交換留学ガチョン大学3名、ベクソク大学2名、インターシップ付留学ヨンセ大学2名、建国大学2名の他、オーストラリアへのインターシップ英語半期留学に2名です。さらに、夏休み中個人的に8名の学生が韓国への短期語学研修に参加しました。

応用心理学部

【臨床心理学科】  
初の「学外実習」を終えて

特任准教授 香取早苗

今年度から「公認心理師」養成のための学外実習がスタートしました。実習先は都立北療育医療センター、都立王子特別支援学校など教育・医療・福祉分野の7施設です。学生は各自、HP等で施設概要を調べ、学びたいことを整理し、実習に臨みました。実習当日は、職員の案内のもと施設を見学し、施設利用者の様子を観察しました。実習後は毎回、各自で実習報告をまとめ、小グループでディスカッション後、代表者が発表し、それぞれの学びを全員で共有しました。

10月の最後の授業では、実習全体についての振り返り報告会を行い、一人ずつ感じたことを話し合いました。

「利用者への配慮がなされた施設環境が、どの施設にも整備されていた。」

「心理職は、一人で対応しているのではなく、医師や精神保健福祉士などと連携し、チームの潤滑油の役割を担っているように感じた」

「当事者を支える家族や支援者支援の重要性を知り、視野が広がった」等、実習で得た学びは大きかったよう



都立北療育医療センターにて

です。また、今はインターネットでも調べられる時代ですが、実際に分の目で見ても確かめることや、現場の方から直接話を聞くことの大切さを感じ取り、「心理職として働く際も正確な情報を得るように努め、お困りの人に届けたい」という感想も多くありました。

私も引率した教員として、実習を重ねる度に、学生たちが視野を広げ学びを深め、一歩ずつ心理職に近づきつつあるのを肌で感じました。今後、大学院に進学して公認心理師の道を目指す者、福祉施設等で支援者として働く者など、学生たちがさまざまな領域で活躍することが期待されます。最後に実習施設の皆様、そして利用者の皆様に深く感謝申し上げます。

【福祉心理学科】  
福祉を学び、働くつらいこと

学科長 江間 由紀夫

今年度も福祉心理学科では、社会福祉士を目指す3年生の相談援助実習及び精神保健福祉士を目指す4年生の精神保健福祉援助実習を終えることができました。関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

実習は、毎年学生たちに大学での講義だけでは学び得ない多くのことを教えてくれます。実習で出会う現場での経験は、時に自分自身を見つめ直さざるを得なくなる厳しさも含んでおり、入学当時の希望や夢とは違った現実に悩む学生たちもいます。また逆に実習で福祉の学びを深めた上で、福祉とは違った世界での活躍を見出していく学生もいます。それは福祉から離れるというわけではなく、一般企業の文化の中で福祉を学んだことを生かしていることとすることでもあります。もちろん入学時からずっと福祉や教育関係を目指して着実に学びを重ね、現場で活躍していくことを選んでいく学生も数多くいます。

大学での4年間で、学生たちがそれぞれの将来を考え、様々な現実に出く当たりながら進路を見出していく姿をずっと見てきました。競争

社会が進む中で、支援を必要とする人たちに向き合い、その暮らしを支える仕事についている卒業生たちの活躍を聞くことは、教員として嬉しいことだと前回の小欄でも書かせていただきました。しかしながら一方では、彼らの働きに対して、現代の社会は十分に応えているだろうか胸が痛む思いを抱えることも多くなっています。

どのような時であつても人が当たり前に生きられることを社会全体で支えようとするのが社会福祉のあり方です。福祉心理学科の学生たちは、たとえ知識や経験が未熟であつてもこの感覚を身につけてくれています。日々学生たちと接しているとちよつとした言葉や態度にそうした変化が見られ、いつの間にかこんなに成長したのだろうか驚かされることがよくあります。

景気に左右され、行き過ぎとも感じられる効率化と、他よりも得をすることにばかりに価値が置かれることの多い社会において、彼らの存在がどれほど貴重であるかを感じさせられます。政治や経済の中心となつた私たち大人の世代は彼らが誇りをもって働ける社会を残していく義務があるのではないでしようか。

【健康・スポーツ心理学科】  
新カリキュラム

学科長 木幡 日出男

2020年度から東京キャンパスで学修する入学生の「健康心理学」の3本柱である「健康心理学」「スポーツ心理学」「ポジティブ心理学」を補完する形で「ウェルネス」に関する学びを加えました。

「ウェルネス」とは、「身体的、精神的、そして社会的に健康で安心な状態」とされています。千葉キャンパスの「郊外型」から東京キャンパスでの「都市型」に、そして「人々の健康づくりを支援する人材育成」から「人や社会のウェルネスを支援する人材育成」として学部のコンセプトもシフトします。

具体的には、ウェルネスに関して学ぶ「ウェルネス論」にはじまり、「ウェルネスプロジェクト・II」では、ウェルネス産業におけるウェルネスイベントを企画・実施するために必要なプロジェクト・マネジメントの理論・方法・手順等を、そして学内、地域社会、企業などを巻き込んだ受講学生によるウェルネスイベント（例：健康まつり、少年スポーツメンタルトレーニング講座、アーバンスポーツ体験等）の企画・実施をPBIL（課題解決型学習）として行い、ウェルネス分野での企画力・実践力を

修得します。さらに、「ウェルネス・ボランティア」では、スポーツ領域の他に健康を含むより広いウェルネス分野でボランティア活動ができるようにしました。

4年間の健康・スポーツ心理学の学びを通して、人々のウェルネスを支援できる、ウェルネス産業分野で活躍できる、さらにスポーツメンタルトレーニングを施せるなど各人材の育成を目指します。

成徳八千代祭り

11月30日（土）、翠樟祭に代わるイベントとして八千代キャンパス学生委員会及び健康・スポーツ心理学科共催の成徳八千代祭りを開催。人文学部英語・英米文化学科卒業生の滝沢秀さん（本冊子8頁ご参照）によるトークや、スポーツ交流会、昼食懇親会などを催しました。本学科からも多くの学生が参加し、イベントの総合司会やスポーツ交流会の企画運営、音楽ライブパフォーマンス、焼きそば等の屋台出店など、学生が中心となって盛り上げてくれました。また、多くの卒業生やそのご家族も来学し、旧交を温める光景が見られました。イベントそのものは小規模ながらも、非常にアットホームな雰囲気の中、参加者は有意義な時間を過ごしてくれたように思います。

子ども学部

子ども学とは（リレー掲載②）  
からだを動かす遊びの中で身につく力

准教授 羽岡 佳子

知識基盤社会である今世紀において、情報化やグローバル化等の流れは予想以上に速く、子どもを取り巻く環境も急速に変化しています。子どもの貧困が課題となり、食生活の乱れや生活習慣病、子どもの体力低下は深刻な問題となっているのです。

文部科学省が昭和三十九年から行っている「体力・運動能力調査」によると、昭和六十年ごろを境に子どもの走る力、投げる力、握力などは、全年代において長期的に低下の一途を辿っていました。救われるべきは、近年、その傾向に歯止めがかかってきたということでしょうか。下げ止まりを経て向上の兆しが見えてきました。

子どもの体力低下の背景として、生活リズムの乱れ、室内で身体を動かさない遊びや映像視聴時間の増加、広い遊び場所や一緒に遊ぶ仲間の減少等が挙げられます。概括すると、「外で大勢の友だちと思いきり楽しんで遊んでいない」と言えるでしょう。

子どもは遊びの中で様々なことを経験し、学び、力をつけて成長していきます。

からだを動かすことは、多様な動きを獲得するだけではなく、様々な運動調整能力を身につけ、自律神経の働きやホルモン分泌能力を高め、情動をコントロールし、対人関係やコミュニケーションを構築します。さらに、戸外での活発な身体活動が脳や神経の働きを刺激するだけでなく、感性を育てることに資します。日本の恵まれた四季折々の自然の様子や寒暖を肌で感じる中で、美しいものを感じ、想像力を働かせ、創造する力や自分の世界を作っていくのです。

改めて考えてみると、私自身、幼いころに学校の休み時間や放課後、友だちと外でからだを動かして「楽しい」と思う経験を多く積んだことにより、成長過程において心身ともに恩恵を受けてきたことが分かります。時代とともにその遊びの中身が変化し、楽しさを感じる価値観が多様化しているも、外でからだを動かして遊ぶ楽しさは不変のものであることを、子どもや学生との遊びを通して実感します。

多様な専門分野からの多角的なアプローチを有する「子ども学」の特性を踏まえながら、授業では子どもの身体活動とそこから生まれるコミュニケーションの重要性について伝え、実践力を養いたいと考えています。

経営学部

経営学の「理論」と「歴史」の学び

教授 武井孝介

経営学は、ビジネスの現場に直結した実践的な学問です。そのため経営学部で開講されている授業も、社会人として必要な知識や技能を習得するキャリア関連の科目や、個別企業の最新動向や事業戦略を取り上げる「事例研究」（ケーススタディ）を中心に展開されているとのイメージをお持ちの方も多いのではないのでしょうか。

しかし、現代のビジネスシーンで見られる経営現象の「本質」を理解するには、実務的・実証的・現代的なアプローチだけでは不十分です。およそ百年といわれる経営学の歴史の中で、これまで多くの学者が様々な経営理論を確立・体系化してきました。そうした経営学の各分野における基礎的な「理論」を修得すると同時に、過去の企業や組織が歩んできた「歴史」を学ぶことによって、はじめて現代の企業や組織、産業を正しく分析することが可能となります。

本学部では、経営学の理論と実証、そして歴史をバランスよく学べるよう、カリキュラムにも工夫が凝らさ

れています。まず、基礎固めが必要な1年次には「経営組織論」を配当

し、社会経済の発展とともに人々の生活や価値観がどのように変化し、それに伴って実際の企業の組織構造や管理手法はいかなる進化を遂げてきたかについて、経営学の基礎理論と関連づけながら学んでいきます。

また、2年次で学ぶ「企業論」では、日本の代表的な企業形態である株式会社を中心に、その制度的特徴や近年のコレポレットガバナンス改革などを取り上げて、「社会の公器」として企業はどうあるべきかを考える素地を提供しています。さらに、3年次配当の「経営史（日本型経営）」では、江戸期の商家以来の歴史をたどりながら、終身雇用・年功賃金に代表される「日本型経営」がいつどのように成立し、今後どう変化していくのかを考察します。

学生にとって「理論」や「歴史」は堅苦しく、あまり面白くないように思われがちです。しかし、現代の企業経営やビジネスモデルを客観的・論理的に捉えるには、これらの知識や考え方が必要不可欠となります。経営学の理論と歴史を学ぶことの意味・重要性が学生に理解されるよう、今後も教育内容の更なる充実を図ってまいります。

短期大学

保育における「チーム」と「絆」

幼児教育科主任 教授 松本純子

9月から各地で開催されたラグビーワールドカップは大変に盛り上がり、試合の結果だけでなく各国チームの特徴や魅力、応援する多くの観客の様子を伝える報道が詳細に行われました。日本チームの「ワゴン・チーム」の取り組みや、「縁の下で支える役割」「タックルされながらもボールをつなぐ」「体の小さな選手が大きな選手に果敢に挑む」等の様子が紹介され、素人のにわかファンの間でもその姿勢や考え方に共感が広がりました。

ラグビーに見られるこうした姿勢や考え方は保育にも共通するものがあり、学生たちも、今回のワールドカップを通して、感動とともに様々なことを学んだようです。授業の中でも「保育は一人ではできない。いろいろな考えの先生がいるけれども、子どものためにワン・チームになることが必要」「子どもたちに、体が小さくても、力が弱くても、諦めないで夢に向かって頑張っていけばできるようになる！」と伝えたいなどの声が学生たちから聞かれます。

特に、実習を重ね、保育の現場での経験を積んできた2年生が、ラグビーから得た刺激を自分の将来の仕事である保育に反映させてこうした発言をしています。社会の事象に敏感に反応し、よいところを早速に自分の生活に取り込んでいこうとする姿勢は、保育者として望まれる資質です。頼もしい限りです。

2年生後期に設定されている『教職実践演習』でも、学生たちは、保育者としての資質・能力を再認識し、現在の自分の力量に正対して、弱点を少しでも補っていかうとしています。社会人としての常識やマナーを学び、先生と呼ばれても恥ずかしくない人になろうと日頃の生活を見直すところから努力をしている学生が多く見られるようになってきました。とはいえ、まだ20歳ですので、社会人としては到底通用しない幼稚な対応が見られることも否めません。

素直で一生懸命な東京成徳短大生よさを失わずに、保育者として社会から期待される人に近づいていけるように、我々教員は大人としての育ちを支えていきたいと考えています。

短大は、2年間という短い期間に幼稚園教諭免許状と保育士資格を

取得するため、毎日授業があり、諸々の課題もこなしていくという非常にタイトな生活です。しかしながら、こうした中でも、実習の枠をはずしてゆったりとした気持ちで子どもと保育者との創り出ししている園生活を体験する園見学や、アンパンマンミュージアム・ジブリの森・地域で開催されている親子教室等に出かけたり、近隣の園を訪問したりして、子どもと関わる機会をできる限り設けていくようにカリキュラムを工夫しています。

子どもと触れ合うと、学生たちも、座学では見られない明るい表情になり、生き生きと動いています。現場での気付き・発見は、楽しいだけでなく大きな学びになっているようです。

また、現役の園長先生や教職員からお話しを伺うと「保育って奥が深い」「まだまだ足りないことや努力しなければいけないことが多いことがわかった」と新たな視点で学ぶ喜びを感じている様子が見られます。

多くの学生が心配している教職員や保護者との連携・協力についても、「子どもを中心に、子どものために教職員が協力することが大切。自分一人で抱え込まないで、

中高一貫部

一貫部における防災教育

「防災の日」の策定

他の先生を信頼してパスできるチームワークを築いていけるようにしたい」「保護者との絆が子どもを育てる時には重要。日頃からの連絡・相談を積み重ねて保護者ともワン・チームになっていらないとため」という感想や、「園長先生たちの話を聞いて、園の先生方も私たちと同じようにいつも努力をしていることがわかった」「中高の部活や短大でのスポーツ大会のように、皆で目標に向かって頑張っているのが保育だと思った。自分も仲間になって頑張れそうだ」という言葉も聞かれるようになってきています。

保育に関心が高まっている社会状況のなかだからこそ、息長く保育に携わっていただける保育者を、東京成徳短大から数多く羽ばたかせたいと思います。今後とも、ご支援をよろしくお願いいたします。



教職実践演習での園見学の一角

防災意識の向上を目的として、平成26年度から学期に1度、年に3回「防災の日」を定め、同日「避難訓練」を実施して、講評と併せ、防災に関する講話も行っています。1学期は「避難経路の確認」。2学期は、「大雨による浸水を想定した訓練」。3学期は北区が主催する「北区シェイクアウト訓練（67団体約1万1千人参加）」にタイアップして実施しています。

教職員対象「救命講習会」の実施

平成19年に「AED」が設置されたことを受けて、王子消防署のご協力を頂き毎年12月に、実施し、3年毎に更新のための再受講を義務付けています。特筆すべきこととして、体育科の2名の教員が、「応急手当普及員」の資格を取得して、講習会の際には、消防署の方と一緒に講師として、指導を行っていることがあげられます。

「行動マニュアル」の作成配布

特色として、①表紙を黄色にして目立たせていること②内容は同一であるが、「家庭保管用」のA4版と「生徒用」として、通学カバンに常に携帯できるように小型のA5版の、防水タイルの用紙で作成していること、があ

げられます。近年多発している大雨による水害等にも対応できるものに改定することが、喫緊の課題です。

本年度は、中高協会の支部長校として9月に「防災連絡会議」を開催しました。

初めに「荒川決壊」を想定した動画を視聴し、それに基づいて、水害対応に関して王子警察署の方からお話を頂きました。その後起きた台風被害を考えると実際にタイムリーな話題であったと思います。また、JRの「計画運休」による休校や登校時間の判断等についての情報交換や各校の防災対策など、今後に活きる、有意義な会議となりました。

近年、想定外の災害が頻発している中、生徒が安心・安全な学校生活を送ることが出来るよう、関係機関との連携を密にしながら、より効果のある防災教育を進めていきたいと考えています。



高等部

文化祭

今年度の文化祭では、3年生はクラスの枠を超え、コースごとでアート、イベント、グルメの三つの部門に分かれて参加しました。

ここでは、選抜コースのアート部門の責任者を務めた3年G組高橋蒼さんの感想を紹介します。

「私は文化祭の両日とも受験日と重なってしまったため、文化祭当日でなくても携わることの出来る、アート(校内装飾)部門に参加することに決めました。9月初旬からデザインを決め、買い出しに行き、文化祭2週間前からは放課後も残って作業を進めました。文化祭当日までの時間も限られ、校内装飾の担当が少なかつたため、2年生の時に同じクラスだった友達に『受験勉強の息抜きとして、作るのに参加したくなったら手伝って欲しい。』と伝えたところ、声をかけていない人も含め、多くの友達が時間を作って手伝いに来てくれました。それでも時間が足りず、家に持ち帰り作業をした時もありましたが、担当でもないのに毎日手伝ってくれる友達や、状況を理解して最終下校ぎりぎりまで作業することを許可してくださっ

た先生方がいて、たくさんの人に支えられていることを日々実感し、最後までやり遂げ、絶対に成功させたいと思いました。

すべてのステンドグラスが完成し、友達や先生に褒めてもらえた時、一緒に喜んでくれるみんなを見て、この仲間と一緒に作り上げる事が出来て本当に良かったと、心から思いました。正直、初めは高校生最後の文化祭が受験のために参加できないことに、とても落ち込みました。ですが、受験があったことで、仲間とステンドグラスを作れ、達成感や感謝の気持ちを感じる事ができたので、高校生活の特別な思い出になりました。



た。文化祭を通して改めて、素敵な仲間に出会う事が出来たと思えました。本当にありがとうございました。」

深谷高等学校

手紙でつむぐ「ありがとう」の思い

2019年は、平成から令和へと改元が行われた年でした。この大きな変化のあった年に、本校所在地である深谷市出身の洪沢栄一翁に関する話題が立て続けにありました。一つが、4月に発表された日本銀行券の改刷です。2024年度上期から栄一翁の肖像が新一万円札に採用されます。そして、もう一つが9月に発表された2021年NHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公が洪沢栄一翁ということ です。

その洪沢栄一翁のこのころを受け継ぐ教育の一環として、深谷市では2012年度から「手紙でつむぐ」ありがとうの思いの手紙の募集を行い、本校生徒も応募しています。そして、今年度は高校生・大学の部において、本校生徒が最優秀賞1点、優秀賞2点を独占しました。ここでは、最優秀賞に輝いた、1年生大澤唯さんの作品を紹介いたします。

「生き抜いてくれた母親へ

私の母親は、昨年、2回目の頭の病気にかかりました。病氣と闘い退院をして元気にすごしている母にありがとうを言いたいです。

母の病氣はひどく、左半身が動いていない状態で運ばれました。危険な状態で覚悟もしていたが、長い手術を乗り越え辛いリハビリを必死にがんばり、いまでは時間がかかる事もあります。お弁当まで作れるようになりました。死を覚悟した状況で必死に生き抜いてくれた母に、なかなか言えないけれどありがとうを伝えたいです。」



深谷中学高校一貫コース

京都・奈良修学旅行

今年度、中学生の修学旅行の目的地がマレーシア・シンガポールからオーストラリアに変わるのに伴い、今年度の中学校三年生は、二泊三日で京都・奈良を訪れました。ここでは、三年一組栗山愛海さんの感想を紹介します。

「私達、中学三年生は京都・奈良に二泊三日で修学旅行に行っていました。クラスでは修学旅行の事前学習を何週間も前から行い、京都・奈良を楽しみにしていました。

初日は雨の奈良公園を散策しました。東大寺の大仏や興福寺をガイドさんの案内の下、見学しました。ガイドさんの説明は歴史の授業のようにわかりやすく、目と耳で大仏や歴史的建造物を見学できました。奈良公園では愛くるしい鹿にせんべいを与えました。しかし、おとなしそうに見えた鹿は食欲旺盛で私のセーターをかじる横暴。油断禁物です。

夕刻、宿に到着。豪華な食事をいただき、二日目の、自由研修のルー

ト確認をして初日を終わりました。

二日目は雨の京都を班別自由研修です。私の班は昔と今を楽しむ行程です。午前中は清水寺・三十三間堂を見学し、昼食は趣のある建物でドラゴンバーガーを食べました。その後、京都駅周辺を散策し京都タワーでタピオカを飲みました。雨に降られましたが古き良きものと現代の流行を味わえた最高の一日でした。

最終日は北野天満宮で祈禱をしていただきました。その後、自由時間ではおみくじやお守りを購入。永い学業向上をお祈りし、修学旅行の全行程を終えました。

今回の修学旅行は天候に悩まされましたが、クラスメイトとの友情や日本の歴史の素晴らしさを再確認できる最高の修学旅行でした。」



幼稚園

秋を探しに赤羽自然観察公園へ

11月5日・12日・19日に分かれて、赤羽自然観察公園に行き、縦割園外保育を実施しました。3日間共小春日和の好天に恵まれた中、子ども達は、楽しく過ごしながら存分に秋を実感しました。

どんな公園なのかと心を弾ませて幼稚園のバスで出発しました。バスが到着すると、みんな笑顔で穴のあいた葉っぱやドングリ、松ぼっくりなどを拾いながら秋の自然をいっぱい感じました。

緑だった植木などの葉の色が変わった様子に、「葉の色が赤や黄色できれいだね。」「どうして色が変わったんだろう。」などと興味を持ちながら散歩しました。



広場に出るとワアーツと歓声を上げながら、年長、年中、年少の各組がみんなで一緒にランニングや鬼ごっこなどをして楽しみ、体をいっぱい動かして遊びました。

沢山遊んだ後は、待ちに待ったお昼ご飯です。この日は、成徳幼稚園特別メニューの温かいカレーを運んでもらいました。青空の下で食べるカレーは格別美味しく、みんなの笑顔がいっぱいでした。年長さんは、小さいお友達のお世話をしたり、年中・年少さんは、お兄さん、お姉さんと手をつないで歩いたり、一緒に遊んで楽しいひと時を過ごしました。

秋も深まり日が短くなると、木の葉などの色が変わる様子を見て、自然の変化を知る、貴重な体験となりました。



秋を彩る各校のイベント

千葉キャンパス

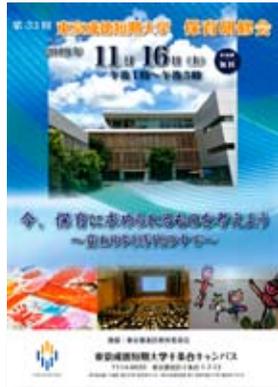


成徳八千代祭りです卒業生マシンガンズ滝沢秀一さん（本冊子8頁ご参照）がトーク

東京キャンパス



卒業生や地域の保育者など多くの保育者などが熱心に研修



東京キャンパスで開催された短期大学主催の保育研修会のパンフレット

東京キャンパス



学園祭で経営学部ファッションコースによるファッションショー「fashion show' 19」のフィナーレ

東京キャンパス



楷の木ホールのエントランスに制作された特大の学園祭ポスター



東京キャンパスの学園祭パンフレット  
今年のテーマは「想像力から創造力へ」

中高一貫部(東京)



文化祭で吹奏楽部がオープニングコンサート

東京キャンパス



学園祭でダンスサークル fascino が躍動感あふれたさまざまなダンスを披露



中高一貫部(東京)の文化祭パンフレット  
今年のテーマは「令和、スターティン!!」

中高一貫部(東京)



文化祭で合唱部が明るく元気にディズニーソングを歌唱

中高一貫部(東京)



文化祭で中学校英語スピーチコンテストの決勝が行われ、3年の部に2名が優勝



来場者を歓迎する入口ホールの制作物

高等部(東京)



文化祭で奨励賞を受賞した文芸部の研究展示

高等部(東京)



文化祭で優秀賞を受賞した漫画イラスト研究部の作品



高等部(東京)の文化祭パンフレット  
今年のテーマは「今からはまる和たしたちの成徳元年」

高等部(東京)



文化祭で水泳部がアーティスティックスイミングを披露

高等部(東京)



文化祭で奨励賞を受賞した演劇部の朗読劇



高等部文化祭で正門に制作された大看板

深谷高校



文化祭のフィナーレを飾るジェット風船飛ばし

深谷高校



文化祭の来校者受付のようす。今年度は、2,786人が来校



深谷校の文化祭パンフレット  
今年のテーマは「1028人が創る新時代」

幼稚園



幼稚園の作品展で、年少組は動物園をつくり、園児全員が作品を発表

深谷中学



メインは学習発表会。今年は全員がパワーポイントを使用して発表



深谷校の文化祭ポスター



子ども学部賞  
「あめのおさんぽ」  
伊東結



子ども学部賞  
「にこちゃんのいちにち」  
湯沢千笑



学長賞  
「ほちやあくんのだび」  
寺山葵



(オノマトペ賞)  
外間美夢



(仕掛けが楽しいで賞)  
荒木美早



(切り絵ごまやか賞)  
羽田野未来



(色彩賞)  
小林レナ



(豊かなイメージ賞)  
谷口鈴奈



(あたたかい賞)  
小宅亜音



(アイデア賞)  
三藤愛未

第10回手作り絵本コンクール  
東京成徳大学子ども学部

クラブ活動

東京成徳大学

- 男子バスケットボール部  
関東大学バスケットボールリーグ戦 3部 ..... 第2位 (2部昇格)
- 女子バスケットボール部  
千葉県女子学生バスケットボール大会春季リーグ戦 ..... 準優勝  
千葉県女子学生バスケットボール大会秋季トーナメント戦 ..... 準優勝

東京成徳大学高等学校

- 女子バスケットボール部  
全国高等学校総合体育大会 (インターハイ) ..... ベスト 16  
全国高等学校バスケットボール選手権大会 (ウィンターカップ) ..... ベスト 16
- バトントワリング部  
バトントワリング関東大会 U-18 の部 バトン編成 ..... 銀賞  
バトントワリング全国大会高等学校の部 バトン編成 ..... 金賞
- ラクロス部  
中高女子ラクロス秋季関東大会 ..... 準優勝

東京成徳大学深谷高等学校

- 弓道部  
全国高等学校総合体育大会 (インターハイ) 弓道競技大会 ..... 女子団体決勝トーナメント進出
- サッカー部  
高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2019 ..... 埼玉県 S1 リーグ第5位
- 写真部  
第38回埼玉県高等学校写真連盟写真展 ..... 優良 (関東地区高等学校写真展に出展)

東京成徳大学中学校

- 女子バスケットボール部  
東京都中学校総合体育大会バスケットボール大会 ..... 第3位  
東京都中学校バスケットボール新人大会 ..... ベスト 8
- バトントワリング部  
バトントワリング全国大会中学校の部 バトン編成 ..... 銀賞

今後の入試日程

※詳細は各校ホームページでご確認ください

東京成徳大学 / 東京成徳短期大学

※出願最終日は消印有効

入試	出願最終日	選考日	入試	出願最終日
一般入試 A 日程	1月20日(月)	1月30日(木)	大学入試センター試験利用入試	
一般入試 B 日程	1月31日(金)	2月12日(水)	1 期	1月28日(火)
一般入試 C 日程	2月19日(水)	2月27日(木)	2 期 (短大を除く)	2月19日(水)
一般入試 D 日程 (短大を除く)	3月11日(水)	3月17日(火)	3 期 (子ども学部・短大を除く)	2月28日(金)

東京成徳大学高等学校

※出願最終日は消印有効

入試	出願最終日	選考日
一般入試 第1回	1月27日(月)	2月10日(月)
一般入試 第2回	※WEBでの出願情報登録は1月24日(金)まで	2月14日(金)

東京成徳大学深谷高等学校

※出願最終日は必着

入試	出願最終日	選考日
一般入試 2月一般・2月単願	2月4日(火)	2月8日(土)
一般入試 3月単願	3月10日(火)	3月10日(火)

※各入試の出願書類郵送前に、WEBでの出願登録が必要です。WEBでの出願登録は、各入試の出願最終日3日前までです。

東京成徳大学中学校

※WEBのみで出願手続は完了。郵送は不要

入試	出願最終日	選考日
一般入試 第1回 午前/午後	1月30日(木)	2月1日(土)
一般入試 第2回 午前/午後	2月1日(土)	2月2日(日)
一般入試 第3回 午前	2月2日(日)	2月3日(月)
一般入試 第4回 午前	2月3日(月)	2月4日(火)

東京成徳大学深谷中学校

※WEBのみで出願手続は完了。郵送は不要

入試	出願最終日	選考日
一般入試 第4回	1月23日(木)	1月25日(土)

※一般入試 第1回～第3回の出願、試験は終了しました。



学校法人 東京成徳学園	<a href="https://www.tokyoseitoku.ac.jp/">https://www.tokyoseitoku.ac.jp/</a>	
東京成徳大学大学院	<a href="https://www.tsu.ac.jp/gra">https://www.tsu.ac.jp/gra</a>	電話 03-5948-5161
心理・教育相談センター	<a href="https://www.tsu.ac.jp/center/tabid/210/Default.aspx">https://www.tsu.ac.jp/center/tabid/210/Default.aspx</a>	電話 03-5948-5162
東京成徳大学	<a href="https://www.tsu.ac.jp">https://www.tsu.ac.jp</a>	
東京キャンパス (十条)		電話 03-3908-4530
千葉キャンパス (八千代)		電話 047-488-7111
東京成徳短期大学	<a href="https://www.tsu.ac.jp">https://www.tsu.ac.jp</a>	電話 03-3908-4530
東京成徳大学中学校・高等学校		
中高一貫部	<a href="https://www.tokyoseitoku.jp/js">https://www.tokyoseitoku.jp/js</a>	電話 03-3911-2786
高等部	<a href="https://www.tokyoseitoku.jp/hs">https://www.tokyoseitoku.jp/hs</a>	電話 03-3911-5196
東京成徳大学深谷中学・高等学校		
中学校	<a href="https://www.tsfj.jp">https://www.tsfj.jp</a>	電話 048-573-1784
高等学校	<a href="http://www.tsfh.jp">http://www.tsfh.jp</a>	電話 048-571-1303
東京成徳短期大学附属幼稚園	<a href="https://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind/">https://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind/</a>	電話 03-3911-6337
東京成徳スイミングスクール		電話 03-3914-2383
学校法人 東京成徳学園	〒114-8526 東京都北区豊島 8-26-9	TEL 03-3911-2411 FAX 03-3911-6500
法人本部企画調査室		東京成徳広報 第47号 2020年1月発行